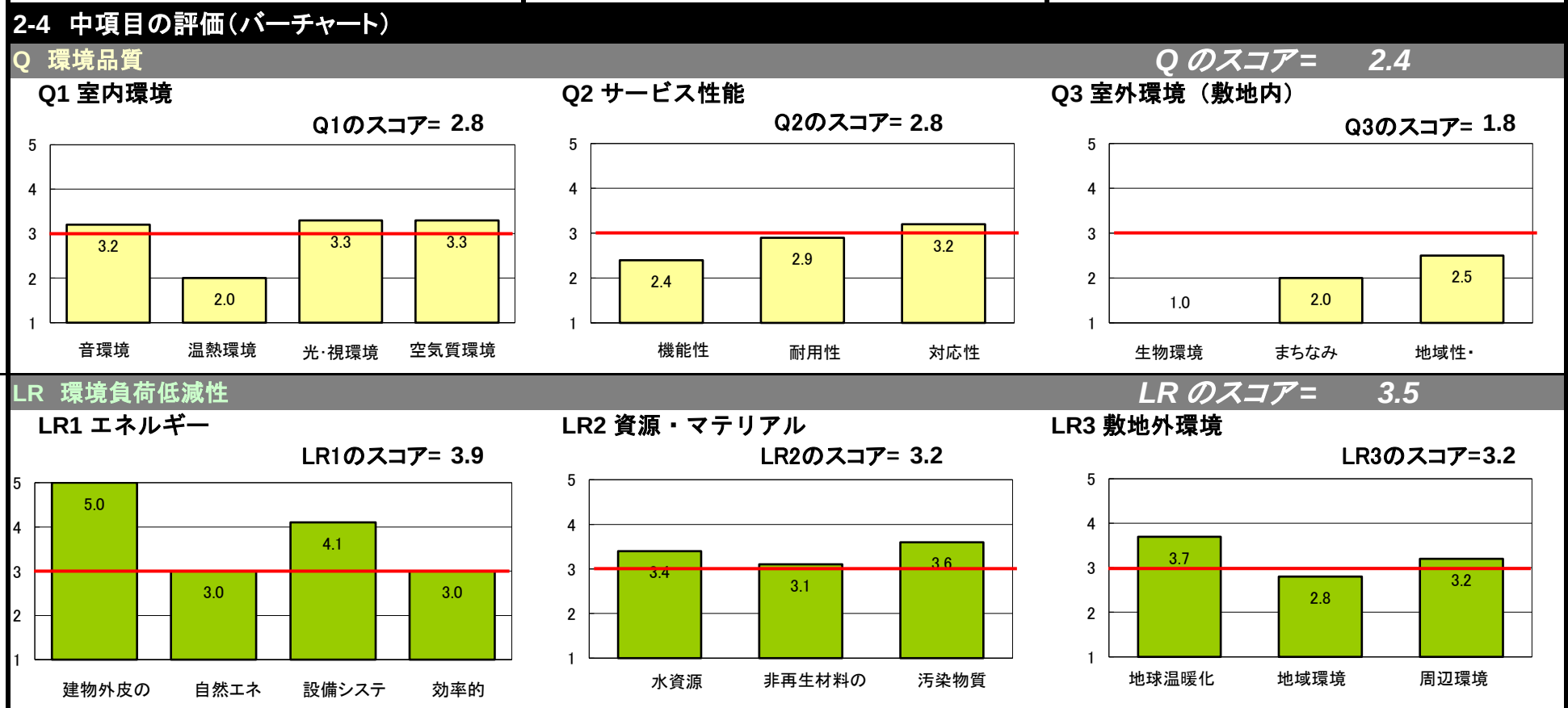
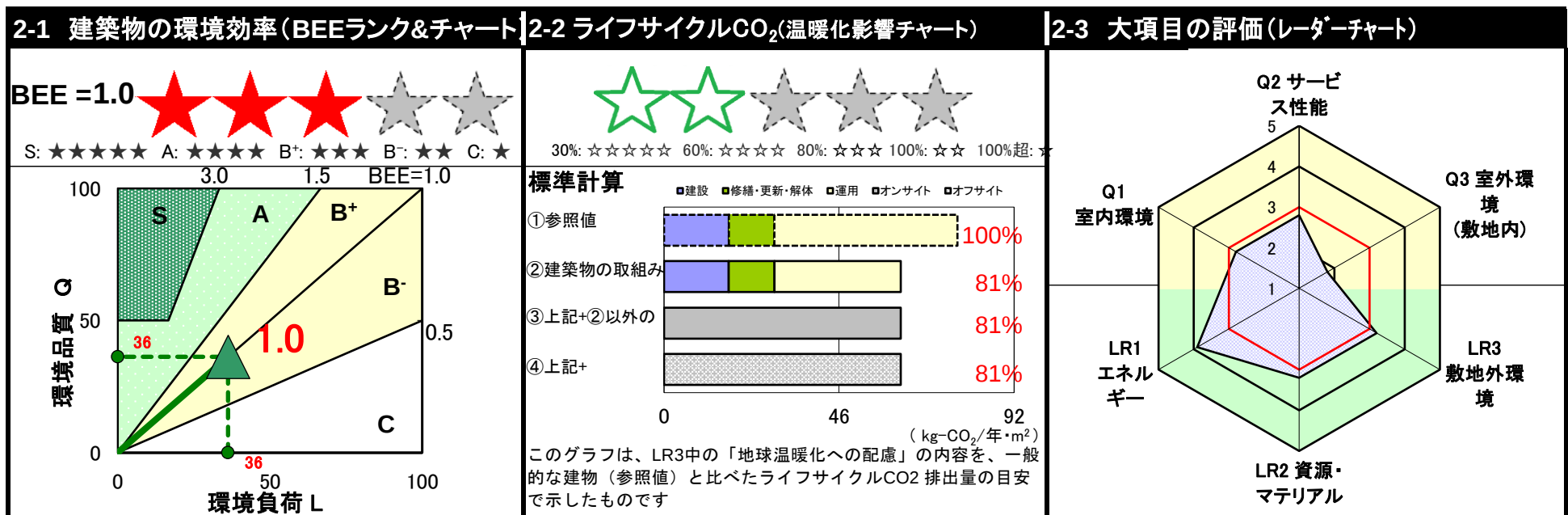


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岡谷特殊鋼センター	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県丹羽郡大口町萩島一丁目42-1,42-3,45-1,56,169-1	構造	S造
用途地域	地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	653 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年4月 予定	評価の実施日	2021年4月14日
敷地面積	20,212 m ²	作成者	八幡 樹幸
建築面積	6,718 m ²	確認日	2021年4月15日
延床面積	7,054 m ²	確認者	小西 秀登



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.7	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.0	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	住居・宿泊部分	全体
		重点項目		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.4
Q1 室内環境						0.31			-	2.8
1 音環境				0.1	3.2	0.15	-	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 開口部遮音性能					3.0	0.60		-	-	
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40		-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-		-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-		-	-	
1.3 吸音			壁、床、天井のうち二面に吸音材を使用している	-	4.0	0.20		-	-	
2 温熱環境				0.3	2.0	0.35	-	-	-	2.0
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	-	
1 室温				3.0	3.0	0.38		-	-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25		-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38		-	-	
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		-	-	
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30		-	-	
3 光・視環境				0.2	3.3	0.25	-	-	-	3.3
3.1 昼光利用				0.3	4.2	0.30	-	-	-	
1 昼光率			2.5% ≤ [昼光率]。	3.0	5.0	0.60		-	-	
2 方位別開口					-	-		-	-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		-	-	
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00		-	-	
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		-	-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		-	-	
4 空気質環境				0.2	3.3	0.25	-	-	-	3.3
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-	
1 化学汚染物質			JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	3.0	4.0	1.00		-	-	
4.2 換気				0.3	3.6	0.30	-	-	-	
1 換気量				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 自然換気性能			自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	3.0	5.0	0.33		-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33		-	-	
4.3 運用管理				0.2	1.0	0.20	-	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-		-	-	
2 喫煙の制御				3.0	1.0	1.00		-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30		-	-	2.8
1 機能性				0.4	2.4	0.40	-	-	-	2.4
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	1.5	0.40	-	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	1.0	0.50		-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	2.0	0.50		-	-	
3 バリアフリー計画		独自		3.0	-	-		-	-	
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 リフレッシュスペース			執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置。	3.0	5.0	0.33		-	-	
3 内装計画				3.0	1.0	0.33		-	-	
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50		-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50		-	-	
2 耐用性・信頼性				0.3	2.9	0.31	-	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.9	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23		-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	2.0	0.23		-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09		-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08		-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水 SGP-VA.VB.VD[VP 相当](B)、排水 SGP-白(C)、給湯	-	4.0	0.15		-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23		-	-	
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
3 電気設備				3.0	3.0	0.20		-	-	
4 機械・配管支持方法			耐震クラスA。	3.0	4.0	0.20		-	-	
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.20		-	-	

3 対応性・更新性					0.2	3.2	0.29		-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			②	[壁長さ比率] <0.1。	0.3	3.8	0.31		-	-	
1 階高のゆとり					-	3.0	0.60		-	-	
2 空間の形状・自由さ					3.0	5.0	0.40		-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性					-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.39		-	-	1.8	
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30		-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	2.0	0.40		-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30		-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-			-	3.5	
LR1 エネルギー						-	0.40		-	3.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m = 0.67	3.0	5.0	0.21		-	5.0	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.11		-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI _m = 0.69	3.0	4.1	0.48		-	4.1	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-		
集合住宅の評価					-	-	-		-		
4.1 モニタリング					-	-	-		-		
4.2 運用管理体制					-	-	-		-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	3.2	
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	3.4	
1.1 節水				節水コマなどに加えて、省水型機器(節水型便器)を用いている。	3.0	4.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.1	0.63		-	3.1	
2.1 材料使用量の削減			② 独自	- 床: タイルカーペット。	-	2.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	3.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	4.0	0.24		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22		-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-		
1 消火剤					-	-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)				ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。	-	5.0	0.50		-		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-		
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して	-	3.7	0.33		-	3.7	
2 地域環境への配慮					0.3	2.8	0.33		-	2.8	
2.1 大気汚染防止				物件は燃焼設備を使用していない。	-	5.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.5	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-		
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33		-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-		
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-		
2 振動			独自		-	-	-		-		
3 悪臭					-	-	-		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制					-	1.0	-		-		
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策している。	-	5.0	0.70		-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-		

重点項目スコアシート
(仮称)岡谷特殊鋼センター

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	3.0
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	1.0
③ 敷地内の緑化				
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:38.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア＝重みの総和

④地域材の活用
重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)岡谷特殊鋼センター

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	2.5%≦[昼光率]。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。
Q2 サービス性能	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置。 耐震クラスA。
Q3 室外環境(敷地内)	外構緑化率38.70%
LR1 エネルギー	BPI _m = 0.67。 BEI _m = 0.69。
LR2 資源・マテリアル	ODP=0、GWP=1の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO ₂ 排出率が、一般的な建物(参照値)に対して81%。
その他	特になし。